

# プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

自主行動計画 2020 の初年度 2016 年度実績 削減率 15.3% 再資源化率 46.6%

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（以下、当協議会）では、2016 年度から 2020 年度を目標年次とする自主行動計画 2020 に取り組んでいます。このほど初年度である 2016 年度の削減率（リデュース率）と再資源化率（リサイクル率）の実績を集計しました。

2016 年度のプラスチック製容器包装（以下、プラ容器包装）の削減率（リデュース率）は、2006 年度からの累計で、15.3%、累計削減量 82,008 トンになりました。

また、再資源化率（リサイクル率）は、46.6%になりました。2011 年から 2016 年までに、容リ協会に委託した量を除く、事業者が独自に再資源化した量は、221,497 トンになりました。

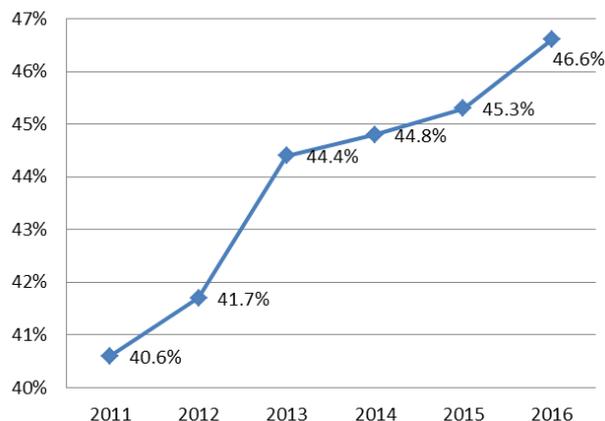
会員各位のご協力に改めて御礼申し上げます。



削減率 = プラ容器包装累計削減量<sup>\*1</sup> ÷  
プラ容器包装の当該年度推定使用量<sup>\*2</sup>

※累計削減量<sup>\*1</sup> (分子) : 2006 年度から当該年度までの累計削減量

※推定使用量<sup>\*2</sup> (分母) : 累計削減量<sup>\*1</sup> + 当該年度のプラ容器包装実使用量。



再資源化率 = (当該年度の再商品化量<sup>\*3</sup> + 当該年度の自主的回収リサイクル量<sup>\*4</sup>) ÷ 2011 年度排出見込量<sup>\*5</sup>

※当該年度の再商品化量<sup>\*3</sup> : (公財) 日本容器包装リサイクル協会の当該年度の公表値。

※当該年度に自主的に回収・リサイクルした量<sup>\*4</sup> : 特定事業者の当該年度の自主的回収リサイクル数量

※2011 年度排出見込量<sup>\*5</sup> : (公財) 日本容器包装リサイクル協会の 2011 年度の公表値。

## 2017 年 3R 改善事例集を作成 23 社が応募、51 アイテム : 60 事例

当協議会では、3R 推進の一環として、2008 年からリデュース・環境配慮に係るプラ容器包装の 3R 改善事例を、毎年、作成しており、2017 年で 10 年目になりました。

2017 年の改善事例を項目別に分類すると、軽量化・薄肉化などリデュース関連項目（基準番号 1～5）の取り組みが、58%と全体の 1/2 以上を占めました。詳細は下表をご覧ください。

次いで、環境にやさしい容器包装（基準番号 6～12）が 43%でした。この改善項目の中には、バイオ素材、再生 PET、再生材の採用など、新たな改善の取り組み事例が増えており、従来からの軽量

化や薄肉化などに加えて、新規素材の採用など素材の見直し等の取組みが顕著です。これは、CO<sub>2</sub>削減や食品ロス削減に繋がる製品設計への取組みが進んでいることが分かります。

2017年の3R改善事例の詳細は、当推進協議会のHPでご確認下さい。

HP アドレス <http://www.pprc.gr.jp>

### 2017年3R改善事例の傾向

改良基準	基準番号	事例数（重複含）	割合
容器包装のコンパクト化	1	7	12%
容器包装の簡略化	2	7	12%
容器包装の薄肉化	3	15	25%
詰め替え	4	4	7%
付け替え	5	1	2%
複合素材化	6		0%
複合材質化	7	1	2%
再生プラスチックの利用	8	8	13%
易分別性容器包装	9	1	2%
減容化	10		0%
環境配慮設計	11	14	23%
その他特性	12	2	3%
合計		60	100%

1～5 軽量化・薄肉化等リデュース 58%

6～12 環境配慮の取組み 43%

### 3R改善事例の一例

**ガルボポケットパック商品群**

株式会社 明治

包装袋のセンターシール部について  
12.5→10.0mmに縮寸  
約2.5%の減量化



**ラックス スーパーリッチシャイントリートメント各種**

ユニリーバ・ジャパン株式会社

包材の材質変更により、容器の強度落とさず、また、外観の大幅な変更を行うことなく、容器総重量を11%削減



## 新潟市、郡山市で意見交換会を開催 市民・自治体との相互理解が深化



新潟市意見交換全体会議

当協議会が、PETボトル協議会の協力で、2012年度から全国各地で開催してきた「市民・自治体と事業者との意見交換会」の第14回を2017年3月に新潟市で、第15回を2017年8月に郡山市で、それぞれ開催しました。

この意見交換会は、市民・NPOや行政・自治体と事業者の直接対話を通して、相互理解と連携・協働への着実なステップを図り、主体間連携を進める取組みとして、2015年度の容り法見直しの合同会合でも紹介されました。

2017年度は、これまでの意見交換会の意見や要望を基に、さらに充実した意見交換会を目指して二都市（郡山市、大分市）で開催します。

なお、この5年間で、意見交換会に参加頂いた方々は、右表の通り、総数で780名、うち市民・NPOが245名、行政・自治体が211名、事業者が324名となりました。

意見交換会の詳細は、当協議会HPでご確認ください。

これまでの市民・自治体と事業者の意見交換会の参加者総数

年度	市民・NPO	行政・自治体	事業者	合計
2012年度	46	25	69	140
2013年度	64	54	73	191
2014年度	54	50	55	159
2015年度	43	46	70	159
2016年度	31	28	39	98
2017年度	7	8	18	33
合計	245	211	324	780

<http://www.pprc.gr.jp/3r/meeting/index.html>

## エコプロ2016に初めて単独出展

2016年12月8日(木)～10日(土)の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催されたエコプロ2016に当協議会として初めて単独出展し、小中学生や市民・自治体、関係事業者など1,500人の方々に来場いただきました。

「知りたかったプラスチック容器包装のすべて」をテーマに、回転ずしをイメージしたユニークな回転展示台の導入や、オリジナル動画「もしも容器包装がなかったら」の上映など、プラ容器包装のすべてを理解できるよう、ブース作りを工夫しました。



ブース全景

また、プラ容器包装の働きと役割、プラ容器包装のライフサイクル、環境配慮とリデュース、リサイクルの取り組み、容り法への提言、市民・自治体と事業者との相互理解の深化と主体間連携の取組みなどを、パネルで展示しました。

当協議会では、2017年度もエコプロ 2017に出展する予定です。



回転展示台

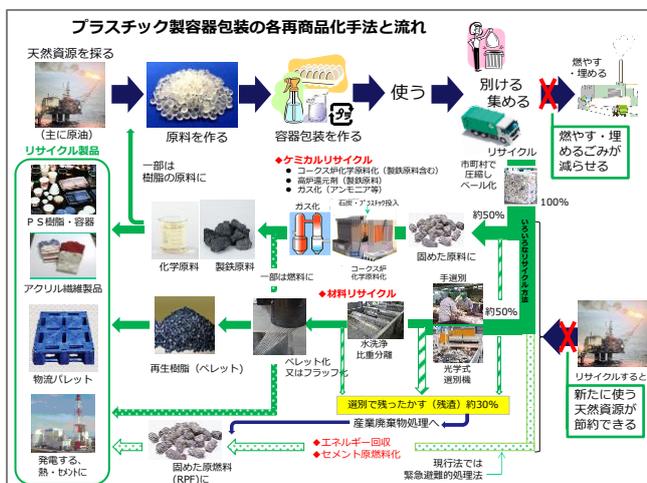
### わかり易いケミカルリサイクルの解説を作成

当協議会は、2015年8月に設置したケミカルリサイクル研究会で、ケミカルリサイクルに関するわかり易い解説資料の作成を進め、2016年11月に「知りたかった・・・ケミカルリサイクル」として本編と参考資料を纏め、当協議会のHPに掲載し、関係先にも配布しました。

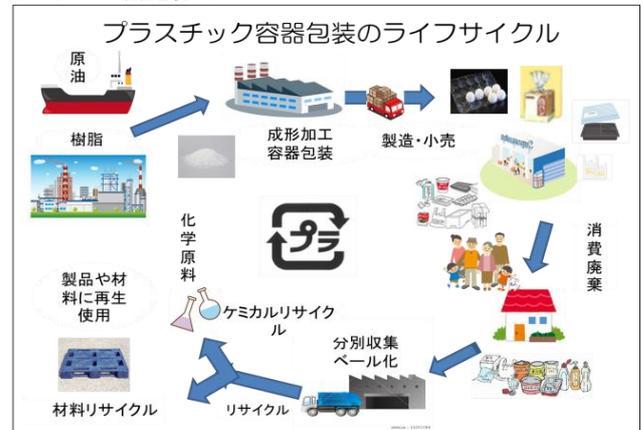
この資料は、ケミカルリサイクル手法の適切な評価を通して、今後のプラ容器包装のあるべき再商品化を考えるための資料と位置付けており、市民、自治体、関連事業者の方々にも分かりやすいケミカルリサイクルの資料として作成しました。

詳細は、当協議会にHPでご確認下さい。

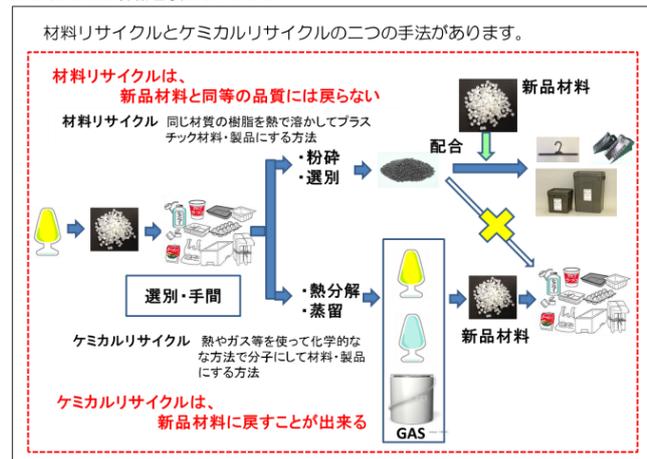
[http://www.pprc.gr.jp/recycle/images/doc\\_chemical\\_001.pdf](http://www.pprc.gr.jp/recycle/images/doc_chemical_001.pdf)



### 2. プラスチック容器包装のリサイクル



### 3. プラスチック容器包装のリサイクル



### 4. プラスチック容器包装のケミカルリサイクル

ケミカルリサイクルの手法	
化学物質や工業原料などに幅広く物質循環を実現する手法や熱エネルギー資源として利用する手法などがあります。	
コークス炉化学原料化	新日鐵住金(株) JFEプラリソース(株)
高炉還元剤化	JFEプラリソース(株)
ガス化 (アンモニア利用等) (エネルギー・燃料利用等)	昭和電工(株) オリックス資源循環(株) ジャパンリサイクル(株) 水島エコワークス(株) 共英製鋼(株)
油化 (ナフサ還元=化学原料化) (混合油化=燃料利用)	現在、該当なし

## プラ容器包装の再商品化入札制度の変更や 2018 年度の入札で意見、要望を提出

当協議会は、2016 年末に導入されたプラ容器包装の再商品化に係る入札制度の変更と、その新制度による 2017 年度の落札結果に対して、環境省と経済産業省に、プラ容器包装の特定事業者の団体として 1 月と 3 月に意見を提出しました。さらに、2018 年度の入札に向けて、2017 年 9 月に、要望書を、両省に提出しました。

1 回目の提出意見は、今回の入札制度の変更について、事前説明から導入までの期間が極めて短かく、十分な検討時間が取れない上、変更内容が「優良な事業者がよりポテンシャルを伸ばせる入札制度である」との両省の説明とは異なり、特定事業者からは『競争環境を排除し、再商品化事業者（材料リサイクル事業者）の一部を保護する政策と映り、あるべきプラ容器包装の再商品化のための制度とは異なる、材料リサイクル事業者の赤字を特定事業者に付け替える政策ではないか、との強い懸念を持ちました』として、変更制度の見直しなど四点について意見提出しました。

また、2 回目の提出意見は、この制度変更に基づいて実施された 2017 年度の落札結果で、これまで減少してきた再商品化委託料の総額が、前年度比約 9.3%（総額約 28 億円）増加したことで、1 回目の意見提出での懸念が、現実になったことから、変更制度の見直しを再度、求めたものです。

さらに 2017 年 9 月には、2018 年度の入札に向けて、これまで提出した意見に沿って 2018 年度の入札で、さらなる再商品化委託料増額にならないようしくみの変更を求めた要望書を、再度、提出したものです。その要望事項は下記の通りで、詳細は、当協議会の HP でご確認ください。

<http://www.pprc.gr.jp/activity/report/opinion20170428.html>

### 2018年(平成30年)度のプラスチック製容器包装の入札についての要望

1. 再商品化コストの透明化と上限価格の引き下げを求めます。
2. 材料リサイクルにおける最低価格の撤廃を求めます。
3. 上限価格設定に際しては、容リ協会の決定を尊重するよう求めます。
4. 安定枠と効率化枠の入札価格の別建てを求めます。
5. 安定枠と効率化枠の総量の配分比率の変更を求めます。
6. 一般枠の競争環境の整備を求めます。

今後も当協議会は、プラ容器包装に係る特定事業者の団体として、あるべき容器包装リサイクル制度に向けた取組みを進めてゆきます。

## 環境省の容リプラ・製品プラ一括回収の実証に対応

当協議会では、環境省が 2017 年度の実証事業として実施するプラ容器包装と製品プラスチックを一括回収する実証に協力しています。

これは、家庭から排出される容器包装以外も含めたプラスチックを、市町村で一括回収し、試行的にリサイクルして、プラスチック資源をできる限り有用に活用する効果的・社会効率的なリサイクルシステムの実現にむけた実証事業です。

実証地域は、富山市、川崎市、横浜市、名古屋市、大阪市、広島市、北九州市の 7 都市。2017 年 10～11 月に約 1 か月間、各都市でそれぞれ一括回収し、中間処理せずにリサイクル事業者へ搬入、光学選別機などで機械選別して試行的にリサイクルする事業で、回収した容リプラ・製品プラの組成調査やリサイクル材の成分分析などを行います。

## プラ容器包装に係る燃料ガス化等検討会に参加、特定事業者として意見表明

プラ容器包装のガス化手法等のうち、生成されたガス等をそのまま燃焼させている手法の取り扱いに関する検討会が、2017年4月と5月の二回、開催され、特定事業者としての意見を表明しました。

この検討会は、2016年5月に結審した容器包装リサイクル制度の実施状況に関する二回目の見直しで、前回の見直しの際に指摘された〈ガス化手法等で生成されたガス等をそのまま燃焼させている手法について、次の見直しの時に検討すること〉とされたことを受けて、経済産業省及び環境省が主催して、その取り扱いについて検討しました。

検討の結果、ガス化手法等で生成されたガス等をそのまま燃焼させている手法については、今後、緊急避難的・補完的に取り扱いとすることになりました。

容器包装リサイクル法・燃料用ガス化手法検討会	
コークスル化学原料化	新日鐵住金㈱ JFEプラリソース㈱
高炉還元剤化	JFEプラリソース㈱
ガス化（アンモニア利用等） （エネルギー・燃料利用等）	昭和電工㈱ オリックス資源循環㈱ ジャパンリサイクル㈱ 水島エコワークス㈱ 共榮製糖㈱
油化（ナフサ還元＝化学原料化） （混合油化＝燃料利用）	現在、該当なし

オリックス資源循環 年間1,000～10,000トンの容リプラを受入れ  
燃料利用 ⇒ 発生熱反応でエタノールを合成  
平成13年～、年間10,000t、前後を再商品化。2014年度9,400t。  
燃料利用 ⇒ 炉内循環気調整用プロセスガス、窒素除去用ガス  
水島エコワークス 2.0燃料利用90～7,000t/年  
燃料用ガス ⇒ 炉内循環気調整用プロセスガスとして販売  
出典：燃料用ガス化手法検討会オリックス資源循環資料

## 3R推進セミナーを開催

当推進協では、毎年、定時総会での記念講演をはじめ、折々の話題を情報提供する3R推進セミナーを開催しており、2016年度下半期は、2017年3月15日に、2017年度上半期は9月22日に、開催しました。

日時	講師	演題
2017年6月 定時総会	慶應大学経済学部 教授 細田衛士 氏	循環型社会の課題と展望

### 3R推進セミナー

2017年3月 3R推進セミナー	(公財) 日本容器包装リサイクル協会	プラスチック容器事業部長 公文 正人 氏	プラスチック容器包装の再商品化に係るH29年度新入札制度の概要
	厚生労働省 医薬食品衛生局 基準審査課	容器包装基準専門官 磯 茂樹 氏	食品用器具・容器包装に係る規制の動向について
2017年9月 3R推進セミナー	日本プラスチック工業連盟	専務理事 岸村 小太郎 氏	海洋ごみ問題の現状と課題
	花王株式会社	シニアエキスパート 小林 三喜雄 氏	欧州 MSW Sorting Plant視察報告書
	環境省 環境再生・資源循環局 リサイクル推進室	室長補佐 井上 雄祐 氏	国内外の資源循環政策の動向